

『自分たちの地域は、自分たちで守る』 小鹿野町消防団

小鹿野町消防団長 大旗 徹



全国各地で地震や風水害などの大規模災害が数多く発生し、地域に密着した防災組織の要である消防団の重要性は年々高まっています。しかし、全国の消防団員数は減少し続け、小鹿野町においても団員は定数に満たない状況が続いており、団員の確保に苦慮しています。今回は、地域にとって必要不可欠な存在である消防団の活動を紹介します。

9/8 第三支団・第四支団合同非常招集訓練(日尾地区)

消防団とは

消防団は、消防組織法に基づき設置されている消防機関です。地域に密着し、平常時・非常時を問わず住民の安心と安全を守る組織として重要な役割を担っています。消防団員は、普段はそれぞれの仕事に就きながら、災害発生時には自宅や職場から現場に駆けつけ、その地域での特性を生かして消防活動を行う非常勤特別職の地方公務員です。

消防団の活動内容

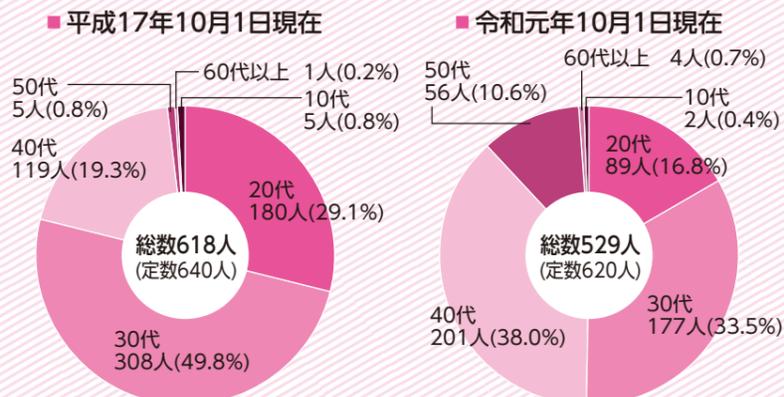
火災発生時の消火活動、地震や大雨など自然災害発生時の警戒や避難誘導、被災者の救助、行方不明者の捜索などの活動を行います。また、平常時には、災害に備えた訓練や火災予防活動などを行い、住民の生命や財産を守り、「安心・安全なまちづくり」のために活動しています。



小鹿野町消防団組織図 (1団5支団23分団)



小鹿野町消防団員の年齢別構成



▲当町においても「団員数の減少」と「団員の高齢化」が進んでいます。

『小鹿野町消防団』の現状や取組

一 県下有数の規模と実績を誇る

小鹿野町消防団は、平成17年10月の町村合併と同時に、旧小鹿野町、旧両神村の消防団も合併し発足しました。組織は支団制を採用し、1団5支団23分団(特別分団含む)、団員数は現在529人で構成されています。車両は、団本部指令車1台、水槽付ポンプ車3台、小型動力ポンプ付水槽車3台、同積載車24台、同軽積載車7台を配備しています。

また、特筆すべきは、団員数が埼玉県下第3位の規模であることです。1位はさいたま市消防団で、人口約131万人に対し1,219人、2位は秩父市消防団で、人口約6万2千人に対し1,003人、次いで小鹿野町消防団が、人口約1万1千人に対し529人であり、人口比率は他の消防団を圧倒しています。

さらに埼玉県消防操法大会において、近年、県下でも有数の実績を残しています。出場した第25回大会(平成20年度)、第27回大会(平成24年度)、第29回大会(平成28年度)では、小型ポンプの部で3連覇を達成し、埼玉県代表として全国消防操法大会に出場しています。消防操法の訓練



第29回埼玉県消防操法大会の様子

は、長期間にわたるため、選手や支援する団員も大変ですが、団員のスキルアップには有効であり、今後も機会があれば挑戦していきます。

一 町域の8割が山岳地帯、常備消防との密接な連携

小鹿野町では近年、火災の発生件数は年7~8件で比較的少なくなってきており、今年も10月1日現在で0件です。ただ、町域が広く山岳地帯が多いこと、常備消防署から離れた場所で火災が起こった場合には、消防団が先着することも多いため、常備消防署との密接な連携をとりながら活動しています。

平成12年2月には、不父見山にて大規模な山林火災が発生し、長期間にわたり延焼し54haを焼失しました。町域の8割が山岳地帯の小鹿野町においては、山林火災における水利の確保が課題となります。そのため、他の消防団では装備されているが少ない水槽付の車両を6台所有しています。

また、火災を想定した非常招集訓練等を各支団で計画し、それぞれ有効な訓練を行っています。

一 強い信念でこの町を守り続ける

小鹿野町消防団においても、夜間はともかく、昼間地元にいる団員が少なく、少子高齢化や過疎化、若者の都市部への流出など、消防団員のなり手そのものが先細りしていく状態です。従って、近い将来には、支団の再編成、分団の統合が必要になると考えられます。

ただ、消防団を取り巻く状況はたいへん厳しいものがありますが、私をはじめ、小鹿野町消防団員のすべてが、生まれ育ったこの町を愛し、自分たちの地域は自分たちで守るという強い信念を持ち、今後も活動していく所存です。

現役分団長に聴く① 消防団の「魅力・やりがい」

- 色々な人と出会え、人脈が広がる。仲間意識も強くなる。
- 与えられた役割を全うした時の充実感。
- 地域に貢献していることが実感できる。
- 自分の家族を含め住民の生命・財産を守るという使命感。
- 人を知ることができ、消防団活動以外の場でも役に立っている。
- 地元の行事に参加して、子どもや年配の方とのコミュニケーションがとれる。
- 地域の方々から頼られる存在になり、責任感が高まり人間形成に役立つ。



事業所も消防団活動に協力しています『消防団協力事業所制度』

団員の多くが被雇用者という状況から事業所の理解と協力が必要不可欠です。この制度は、従業員の入団や消防団活動に積極的に協力している事業所に対し、表示証を交付することで地域防災体制の強化充実をより一層図ることを目的としています。

現在、小鹿野町消防団協力事業所として次の10事業所を認定しています。※認定順

- (株)秩父富士
- (株)秩父富士長若工場
- (株)秩父富士両神工場
- (株)山口組
- (株)ヤマホン
- (株)ふるさと両神
- (有)長若建設
- (株)岩田組
- (株)両岩
- (株)荒川瀧石

